

岡山市北区京山地区で、飲料を入れて繰り返し使えるタンブラーを積極的に使ってもらう取り組みが進んでいます。記事を読み、質問に答えましょう。

タンブラー積極活用を

京山地区モニター募る

ペットボトル飲料の購入に伴って出るプラスチックごみの削減につなげようと、岡山市北区京山地区で、飲料を入れて繰り返し使えるタンブラーのモニターを募り、積極的な活用を促す取り組みが進んでいる。29日にはマイボトル普及をテーマにした交流会を計画する。(常井智之)



竹境の繊維を混ぜて 29日に普及交流会

プラスチックごみ削減

タンブラーは容量340ミリリットル。自然素材の竹の繊維を混ぜることで合成樹脂の使用量を減らしており、環境に優しい製品という。

一宮高生徒のデザインを採用。側面にESD(持続可能な開発のための教育)とSDGs(持続可能な開発目標)を推進協賛する「事務局・京山公民館」が、マイボトルの利用を促し、海洋汚染の原因となるプラスチックごみ削減への意識を高める目的で500個を作った。公民館で希望者から500円を預かった上で手渡し、2カ月ほど経過した後利用状況などのアンケートに答えた人に預かり金を返す。公民館には無料の水スロットも設けており、内藤元久館長(69)は「若い方だけでなく、年配の方もタンブラーなどのマイボトルを使うきっかけとしてもらいたい」と話している。

交流会は午前10時～午後0時半、京山公民館(SUGIYAMA-CITIZEN)で開く。協議会のフェスティバルの一環。マイボトルの利用者がトークを繰り広げ、聴講できる。

竹の繊維を混ぜて合成樹脂の使用量を減らしたタンブラー。モニターを募っている

1月24日付山陽新聞、岡山市民版

Q1 岡山市北区京山地区で活用を促しているタンブラーには環境に優しい特徴があります。どのような特徴でしょうか。第2段落をよく読み、答えましょう。

Q2 京山地区の住民らはこのタンブラーを通じて、マイボトルの利用を促そうとしています。なぜこの取り組みをしていますか。第4段落の言葉で答えましょう。

Q3 あなたの身の回りで、プラスチックごみを減らすためにどんなことができるか、考えましょう。

過去の問題は
こちらから▶▶

